

第二回懇談会 議論のポイント

(前回懇談会の結論)

○四国の鉄道が、車社会の進展や高速道路の整備・延伸等により極めて厳しい状況に置かれる中、平成 22 年 4 月に設置された「四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会」において、翌年 7 月、「四国の鉄道ネットワークを維持する」とともに、「鉄道の抜本的な高速化を進める」とする提言が取りまとめられた。



約 6 年が経過

「鉄道の抜本的な高速化」

○四国新幹線の実現に向けて、オール四国態勢で取り組みが進められている。



(ただ、実現には一定の期間を要することが想定される。)

「四国の鉄道ネットワークの維持」

○全国的に地方の鉄道の置かれた状況は一層厳しさを増してきており、全国に先駆けて人口減少の進む四国においても、鉄道事業者の自助努力のみでは、現在の鉄道ネットワークを維持することが将来的に困難になることが想定される。

(本懇談会第一回懇談会での議論)

○こうした状況から、本懇談会を設置し、平成 29 年 8 月 18 日に第一回懇談会を開催し、ご議論を頂いた。
○その結果、「鉄道の利用促進に向けて、事業者の更なる自助努力を前提に、他交通モードとの連携強化や、まちづくりの観点からの検討が必要」「公共交通は採算性だけでなく社会的共通資本という側面から議論が必要」といった旨など多様な意見が出されたが、総論としては、「四国地域にとって将来的にも必要である、鉄道をはじめとする公共交通ネットワークを、社会インフラとしてどのように考えて、維持していくか、検討していかなければならない」との認識が共有された。



(今回議論をお願いしたい内容)

そこで今回は、

- これからの四国の公共交通ネットワークにおける鉄道ネットワークとはどのようなものがあるべきか
- その将来像を実現するために、今後、どのような方策を講じていくべきと考えるか（自治体、住民（利用者）、国、事業者が一緒になって支える仕組みなど）について、議論を深めていただきたい。

(参考) 四国の活性化を支える鉄道ネットワークのイメージ

「四国の鉄道活性化への提言」(平成 23 年 7 月 四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会) より抜粋

[四国の活性化を支える鉄道ネットワークのイメージ]

